

都市再生整備計画(第8回変更)

ちゅうおう
中央地区

かながわけん えびなし
神奈川県 海老名市

平成21年8月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	海老名市	地区名	中央地区	面積	234 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度				

目標	
大目標:みちのネットワークから安心・安全な都市の創造。	
目標1	道路網の整備により交通アクセス、交通安全、歩行者の快適性の向上を図る。
目標2	防災拠点の整備と雨水災害対策を図り、災害に強い都市環境を形成する。
目標3	防犯及び交通安全対策を図り安心・安全な歩行環境を確保する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

○まちづくりの現況

・海老名市は、神奈川県ほぼ中央に位置し、鉄道も3路線が乗り入れており、鉄道利用により新宿まで60分、横浜まで30分と立地条件に恵まれている。この様に立地条件に恵まれた海老名駅周辺地区は、バブル経済崩壊後、地価の下落に伴い駅周辺の商業地域に中高層の集合住宅の立地に拍車がかかり、駅周辺の中央3丁目地区については人口が平成7年の1095人から平成17年の2730人へと10年間で約3倍という顕著な増加傾向を示している。
 ・道路については市域を東名高速道路と国道246号が横断しているが、市域内にはインターチェンジが無く、市内の道路網については相模川及び鉄道網により交通が寸断され、その周辺部において慢性的な交通渋滞が発生している。さらに、平成14年4月、海老名駅東口地区に大型商業施設(ビナウォーク)がオープンしたことで、商業施設を核とした中心市街地が形成されつつある反面、市域外からも多くの人が訪れるようになり、特に休日には、駅周辺での交通渋滞が慢性化しており、自動車交通の環境悪化に拍車がかかっている。
 ・昭和50年には、59,000人余りであった当時の人口も、平成17年1月には123,000人を超えており、質の高い生活環境を整える必要があると共に、災害時において多くの市民を救援する施設等の充実を図るべく整備を進めているが、特にこの地区は、生活環境の中心となる施設が集積しており、また中央三丁目など海老名駅に近い区域を中心に大型集合住宅が建設され、更に今後も計画もされていることから、防災拠点とした位置付けも求められている。
 ・本地区は、平成元年4月に市役所が移転したのを契機として、消防署(本署)、医療センター、市民活動サポートセンター、保健相談センター、わかば会館(高齢者及び障害者ケアセンター)、総合病院などの生活環境の中心となる施設が配置され、海老名警察署も平成13年4月に新設された。また、小・中・高校などの教育施設もあることから、これら施設と連携や交流を図っていく必要がある地区である。

○まちづくりの取り組み

・本市では駅周辺部の適正な道路交通網の構築を図るべく、神奈川県及び小田急電鉄(株)と共同して鉄道の立体交差事業及び関連する幹線道路網の整備に着手したところである。
 ・平成19年度に供用開始を目指す、さがみ縦貫道路(仮称)海老名北インターチェンジのアクセス機能を確保するため、県・市で役割分担を定めアクセス道路の整備に着手している。
 ・災害時において多くの市民を救援する施設等の充実を図るべく広域避難所の耐震補強等の整備を進めている。
 ・海老名駅周辺地区が平成15年度に「あんしん歩行エリア」の指定を受け、平成16年度は、広報、HPにより、安全対策の意見募集及びイベント内や小中学生を対象としたアンケート調査を実施し、市民意見を幅広く反映した対策を検討するため、関係自治会及び小中学校や交通安全協会等の代表で構成するあんしん歩行エリア検討会を立ち上げ、市民と協働での交通安全対策の取り組みを図っており、平成19年度までエリア内の交通事故抑止の取り組みを集中的に推進する。
 ・本市では、近年の異常気象及び東海地震、南関東地震による災害や多発する犯罪、交通事故などに対応するため、平成17年度を「防犯、防災、交通安全の年」と位置づけ、「えびな安全・安心2005」と銘打ち、防犯、防災、交通安全に係る既存事業の拡充及び新設などにより、市民、各種団体、事業所等と共同して全市的に事業展開を図り、関係する機関、団体との連携を強化し、広範かつ多層的な活動を推進する。

課題

- ①海老名駅東口地区の南に位置する本地区は、海老名駅周辺へアクセスする通過地区であることから、交通アクセスへの対処が必要となっており、首都圏の慢性的な渋滞解消の一環として整備が進められている圏央道の一部となる「さがみ縦貫道路」の整備が進み平成19年度には「(仮称)海老名北インターチェンジ」の供用に起因する、大規模な発生交通及び駅周辺の慢性的な交通渋滞に対応する新たな道路交通網の整備が必要である。
- ②本地区では地区人口の急激な増加に対して、災害時の避難ルートや延焼遮断帯の整備及び地域防災計画に位置付けられている広域避難所などの整備が不十分であり、これらの機能強化を行う必要がある。
- ③本地区では、多量降雨による浸水と下水道汚水管に雨水が浸入し、管渠が満水となり、トイレが排水されない地区がある。これらの対策のため、浸水対策及び汚水管渠の侵入水対策の整備拡充を図る必要がある。
- ④本地区は、市役所、消防署(本署)、医療センター、市民活動サポートセンター、わかば会館(高齢者及び障害者ケアセンター)、総合病院、海老名警察署などの生活環境の中心となる施設が配置され、また、小・中・高校などの教育施設もあることから、これら施設と連携や交流を図るため各拠点施設利用者の歩行空間の整備拡充を行い、アクセス性及び安全性の向上を図る必要がある。

将来ビジョン(中長期)

・第三次総合計画では、「ゆとりと活力あるまちえびな」を将来都市像とし、基本構想で「安心して快適に暮らせるまち・快適環境都市」、「ゆとりある住みよいまち・生活拠点都市」などの基本目標を掲げ、交通網の整備や防災機能の強化を中心にまちづくりに取り組んでいる。
 ・平成9年度策定の都市マスタープランでは、海老名駅周辺地区から厚木駅にかけてのエリアを中心核として、広域的な拠点市街地と位置付け「生活道路の整備、道路網の再編」や「鉄道駅周辺における交通結節機能の強化」及び「防災機能の強化」をスローガンとして都市環境の整備を目指している。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
1. 海老名駅・IC間のアクセス時間	分	海老名駅とインターチェンジとの所要時間	道路網の整備を行い、海老名駅とインターチェンジとのアクセス時間短縮を図る。	33	平成16年	6	平成21年
2. 防災拠点の整備	%	地域防災計画に位置付けられた避難施設の被災者収容率	避難施設の耐震補強を行い、災害時の被災者収容率の向上を図る。	57	平成16年	70	平成21年
3. 生活の便利さ住民満足度	%	住民アンケート調査による生活利便性満足度	道路網整備による渋滞解消、防災防犯対策、住民自治推進により、住民満足度の向上を図る。	55	平成16年	62	平成21年

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1（道路網の整備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さがみ縦貫道路(仮称)海老名北インターチェンジ」供用に起因する大規模な発生交通及び駅周辺の慢性的な交通渋滞に対応する新たな道路交通網の整備を行う。 ・既存市街地への通過交通流入を防ぐための外周道路を整備する。 ・鉄道の高架化により、交通の阻害要因となっている踏切を除却することで、交通渋滞を解消させる。 	<p>道路事業(基幹事業、中新田鍛冶返線)、道路事業(基幹事業／市道415号線整備)、道路事業(基幹事業／市道11号線歩道整備)、道路事業(基幹事業／市道60号線歩道整備)、道路事業(基幹事業／市道13号線交差点改良)、事業活用調査(提案事業／交通量調査)、さがみ縦貫道路(関連事業・日本道路公団)、街路事業(関連事業、(都)下今泉門沢橋線・県)、街路事業(関連事業、小田急線鉄道高架事業・県、市、小田急電鉄株)、街路事業(関連事業、(都)河原口勝瀬線・市)</p>
<p>整備方針2（災害に強い都市環境の形成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点の整備及び水路の改修などにより、都市型災害に備えた災害に強いまちづくりを図る。 ・外周道路及び歩行空間の整備により災害時の避難ルートや延焼遮断帯の整備を行い防災機能の強化を図る。 ・地域分断の要因となっている鉄道を高架化することで、災害時の避難路を確保する。 ・広域避難所耐震補強については、地域防災計画に広域避難場所および避難所として位置づいている施設の整備を行う。 ・医療救護所非常用電源設備については、地域防災計画に医療救護所および避難所として位置づいている施設の整備を行う。 ・防災行政無線屋外子局設置については、地域防災計画に防災行政無線局固定系子局として位置づける予定の施設の整備を行う。 	<p>道路事業(基幹事業、中新田鍛冶返線)、道路事業(基幹事業／市道415号線整備)、道路事業(基幹事業／市道11号線歩道整備)、道路事業(基幹事業／市道60号線歩道整備)、公園事業(基幹事業／(仮称)河原口相沢公園整備事業)、下水道事業(基幹事業／貫抜排水区浸水対策(河原口))、地域生活基盤施設(基幹事業／広域避難所耐震補強、医療救護所非常用電源設備、防災行政無線屋外子局設置、(仮称)今福記念広場整備、情報版整備事業、横須賀水道路通路整備、河原口37分区公共下水道管更正事業、中新田37分区公共下水道管更正事業、貫抜排水区対策(中新田)、48号水路改修事業)、地域創造支援事業(提案事業／携帯電話対応型通信施設、応急対策基地、高規格救急車)、道路事業(関連事業、市／あんしん歩行エリア、バリアフリー形成事業)、道路事業(関連事業、市／市道12号線歩道整備)、下水道事業(関連事業、市／貫抜1号雨水幹線改修事業)、医療救護所大規模修繕(関連事業、市／中新田コミュニティーセンター、市民活動サポートセンター)、街路事業(関連事業、(都)下今泉門沢橋線・県)、街路事業(関連事業、小田急線鉄道高架事業・県、市、小田急電鉄株)、街路事業(関連事業、(都)河原口勝瀬線・市)</p>
<p>整備方針3（歩行環境の整備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行空間の整備により地区内のアクセス性及び安全性を高め、各拠点施設利用者の利便性向上を図る。 ・各種防犯対策により安全安心な歩行空間を確保する。 ・地域分断の要因となっている鉄道を高架化することで、通勤通学の安全性確保及び地区間の施設相互利用の促進を図る。 	<p>道路事業(基幹事業、中新田鍛冶返線)、道路事業(基幹事業／市道415号線整備)、道路事業(基幹事業／市道11号線歩道整備)、道路事業(基幹事業／市道11号線他道路施設設置)、道路事業(基幹事業／市道60号線歩道整備)、道路事業(基幹事業／市道海老名駅大谷線透水性舗装工事)、道路事業(基幹事業／市道1750号線透水性舗装工事)、地域創造支援事業(提案事業／防犯灯設置、海老名駅歩行者移動円滑化事業)、地域生活基盤施設(基幹事業／(仮称)今福記念広場整備、横須賀水道路通路整備)、まちづくり活動推進事業(提案事業／防犯対策充実・重点地区助成金)道路事業(関連事業、市／あんしん歩行エリア、バリアフリー形成事業)、道路事業(関連事業、市／市道12号線歩道整備)、街路事業(関連事業、(都)下今泉門沢橋線・県)、街路事業(関連事業、小田急線鉄道高架事業・県、市、小田急電鉄株)、街路事業(関連事業、(都)河原口勝瀬線・市)</p>

その他

- 市民意識調査の実施について
本市では、市政に対する市民意識の傾向を把握するとともに、市民の意見・要望を的確にとらえて、市の実施計画や施策事業に反映させるために、隔年度に「市民意識調査(市政アンケート)」を実施しております。調査内容としては、「定住性・生活環境」、「海老名市の魅力と将来像」、「駅周辺市街地整備」などについて行い、今後の市政への直接的な市民参加を促進するとともに、本事業の事後評価に対する基礎資料として活用します。
- 「安全」、「安心」なまちづくりに関する取り組みについて
本市では、交通事故や犯罪をなくし、明るく住みよい地域社会を築くため、関係機関及び市民が一体となって、交通安全・防犯意識の高揚を図ることを目的として、「海老名市交通・防犯市民のつどい」を実施し、交通安全・防犯功労者や交通安全・防犯ポスターの表彰などを行い、「安心」、「安全」なまちづくりに関する取り組みを継続していきます。
- (仮称)河原口相沢公園整備事業、河原口37分区公共下水道管更正事業、中新田37分区公共下水道管更正事業、貫抜排水区対策(中新田)、48号水路改修事業については、防災機能の向上を図る施設として整備を行う。

都市再生整備計画の区域

中央地区(神奈川県海老名市)	面積 234 ha	区域 海老名市中央一丁目、中央三丁目、河原口、さつき町、中新田、大谷、勝瀬、上郷、上郷一丁目の各一部
----------------	-----------	--

